



廣白石畫書

蝦夷風土記
北海隨筆
附錄

弘文館
印

14
588
14



門 增
冊 八八
卷 14



木

蝦夷風土記目錄

沿革

疆域

東西部落

諸島

草類多

狸奴

索水達莫

產物





交易

君臣禮節

男子

婦人

婚姻

生育

疾病醫藥

喪事

祭祀



飲饌歌舞

居室

衣服

船

兵器

製毒

嗜好

戰鬪

漁獵

五

27

珍室

百工

算數

譯語

人物圖

蝦夷冠裳

蝦夷風土記

沿革

蝦夷一曰毛人古北倭之初雜居于越與等地

景行天皇征東詔曰東夷犯邊界以畧人氏往古以

來示滿王化由是觀之其侵犯內地日亦以久矣一

叛一服要在羈縻而已

齊明天皇四年遣西條臣率船師伐蝦夷鞆田渟代

的帥迎降渡島蝦夷亦來會乃定停代津輕二郡而

新石誌

還五年復遣阿倍臣飽田津輕淨代膽振鉏等帥
以伐蝦夷乃徇其地遂置治於後方羊蹄而還
天平宣字六年東海東山節度使藤原惠美朝臣朝
獨勒右於鎮守府門以誌四方里程曰古蝦夷國界
一百二十里夷種之近迫可知至其馳之海外悉
收東北諸地省征東將軍坂上大宿祢田村麻呂也
其後文治伐真之役糠部津輕等處人道逃入蝦夷
人居益多東至函川西及要一地
嘉吉三年下國安東太越海稱雄及宣德三年新羅

獲

信廣越海而起于天河焉信廣本居內地蠣崎故為
蠣崎氏自蠣崎氏越海以來下國民益衰遂為蠣崎
氏所滅永十一年遷居于松前後因以為氏上自
君下至大夫士各分占其地漁獵之獲收以代田祿
名雖曰如鎮夷其实是蝦夷族

疆域

其地在東北大海中大嶋一小島五十南距津輕僅
七八里北接索木遠莫海路一日可到東北距赤夷
國二百里島之大者其近乃松前治城所存者古所

口達

蝦夷

謂渡島周廻六百里其遠曰草類多在渡島北松前亦蝦夷十一小村落蝦呼做馬多瑛丹占地東南面屬松前境東至龜田西至熊右有閉以誤人夷出入今人居益多東施及塩吹西及設気奈一從此以北皆為蝦夷地

東西部落

蝦夷島周廻六百里地多山險其詳不可得知可知者海濱已蝦皆以漁為生故多居海濱焉部落凡二百而屬松前境者八十松前城今在蝦夷一面從此

西北至足島之為上蝦從此東北至足島之為下蝦

屬松前境部落

子ワタ サツマ アカハ アマタレイ
モクサ ノシノシク キヨ一 エラマチ
ヲコニ ハラロ ヒイシ ハ子サン
シホフキ タキイシ タキサハ キノ子
カミノクミ キタラ ヨカハ フルチ
エカワテ モレリ ツハナ エサレ
トヨ一 ナイ ツメキイシ オコナイ

コーヤ 夕サハ ノナ スシキト コカツテ
 フトヘ コモナイ フモナイ イツフ
 シウヤ カハレラ アイノマナイ トマリ
 ケンニチ クマイシ ホロムイ セツキナイ
 以上係松前治城以西
 オヨハ オウサハ レウヒケ ヨレオカ
 シヤノウタ 子マツリ シラフ フクレマ
 シリウチ ヱキモトキコナイ シヤツカリ
 イツミサハ ロノチヤウカマヤ シイシ

コーヤ 夕サハ ノナ スシキト コカツテ
 フトヘ コモナイ フモナイ イツフ
 シウヤ カハレラ アイノマナイ トマリ
 ケンニチ クマイシ ホロムイ セツキナイ
 以上係松前治城以西
 オヨハ オウサハ レウヒケ ヨレオカ
 シヤノウタ 子マツリ シラフ フクレマ
 シリウチ ヱキモトキコナイ シヤツカリ
 イツミサハ ロノチヤウカマヤ シイシ

ユキキ ロクチヤウノマ フーツ
ヲタフシツ タクシ子シリシカベチ
イハチイシリラカ オクトマリ フルテ
サニハ任シヤクヌヒタン フルヒラ
サルマキ モイレヨイチ フシコロ
シクツシカノチナイ ガタルナイ
ハクシヤフ シノロシロイルマ
シヤツホロ イシカレ フシヨロマツ
アツタ ーシケハツカリホロトマリ

ハレノチ ツルオツト マーテイーギ
テシホ ハツカイチ ツリン ノツシヤム クウヤ

以上係西部

ハラキ シリキシナイ ユケレナイ コフイ
子クナイ ヲサツハ オトシツノタエ
エウノツフ クウテツラト クシタイ
レワカリ シシラコタテハウス
エントモ アヨロバシテイタルマ
マカマイ イブツスアツマツムカハサル

モンハツ
シツイシ
ラシ
シニ
チヨロ
チハ
リイ
リニ
ノホ
ウツ
マ
ノ
ト
タ
カ
シ
フ
カ
ノ
ツ
シ
ヤ
ム
ハ
ケ
ル
ウ
シ
ヤ
チ
ヤ
ル
シ
ヤ
ル
ハ
ケ
ル
ウ
シ
ヤ
チ
ヤ
ル
シ
ヤ
ル

シヨ
以上係東部
諸島
ハ島
大島
オ
コ
シ
リ
ノ
ヲ
ラン
ニ
島
以上六島属西部
ハ
イ
シ
リ
ノ
ヲ
ラン
ニ
島
以上六島属西部
イ
ル
シ
フ
ツ
モ
シ
リ
ノ
ヲ
ラン
ニ
島
以上六島属西部
カ
ナ
シ
リ
ノ
ヲ
ラン
ニ
島
以上六島属西部
マ
カ
シ
ル
レ
ノ
ヲ
ラン
ニ
島
以上六島属西部
ウ
ル
ノ
ヲ
ラン
ニ
島
以上六島属西部

スレヨク、ク、ス、カ、マ、
エトホロ、シ、ア、シ、タ、シ、ホ、シ、チ、リ、ク、イ
モトハ、コ、ク、マ、タ、テ、シ、リ、オ、ク、イ、
モ、シ、ヤ、マ、カ、ン、ナ、シ、イ、モ、シ、ヤ、
テ、ツ、コ、ヤ、キ、ラ、ヤ、シ、リ、マ、サ、子、
マ、カ、ン、
其、它、無、名、島、五

六 以上属东部

小島在松前城西十里無人居、
秋冬長者至五六尺有鳥、
田子、
奈言、
皆上、
有釣、
以連串、
魚為貯、
生平

〇手

不慣見人、故捕者時至、
翱翔來觸、徒手可捕、
或曰、
乃所謂善知鳥是也、

〇距

大島距小島十里、
生硫黃、
炎々之煙、
四時不斷、
和古詩、
利之、
和、
打磯、
三里、
來往、
買船、
多泊、
此島、
以候風、

利一詩、
利志、
拔草、
一、
利子、
二十餘里、
其島、
周迴、
四、
十里、
削成、
至高、
姿態、
可觀、

列復木、
詩、
利在、
利一、
詩、
利北、
三里、
周迴、
五十里、
其、
項北、
之、
利一、
詩、
利大、
低、

〇比

北

骨奈詩刑距乃子氣三里周迴二百里有蝦居焉
羽多六福周迴百五十里
島而福周迴二百里一呼臘虎島免奈詩骨奈詩
利地方蝦夷多來而捕臘扁近時赤夷亦來捕之
者益多又有呼丹多六福為臘虎島者蓋此際海
所在有臘虎故或名彼号此亦莫所妨已

草類多

由天島之開洋針路十八九里其島至廣部落三十
此接索木達莫空曆元年松前走加藤嘉兵衛始通

木

交易其後索木達莫處曰奈子過月多海路一日可
渡之奈子過月多乃天多其間海文ノ焉名曰奈
子過和冬日冰合至堅可徒涉索木達莫人往來其
上使狗曳雪輿近時草類多地方蝦有從索木達莫
人而往滿州者滿人授姓名曰楊仲貞

猩奴

其人弁髮常薙額上髮令不長須鬚全薙頭髮皆赤
故名曰赤夷被服容儀大低与阿蘭陀相類者戴黑
絨巾對人則脫去烏鏡不離身即婦女必扶一小鏡

上

巾

文字橫行字樣亦類阿蘭陀而不可說箕盤珠每行
十顆橫一梁界其半豎立之前在右運移計數船兩
舳置車輪運轉凌波雖至險波濤莫不可行前時數
十人來島而福寺處帶婦人三名一婦服裝最盛蓋
亦夷中最貴者之偶兩婢侍其左右者諸錄從更拉
去御之曾無怪色亦時媠蝦夷婦蝦大衛之因啗以
女兒乘夜擊之一行皆死僅活遺兩三名以報其狀
於本國其後不敢恣強嗔其來意在捕臘命故常容
居島而福口多六福等島時通交易所交易物作繪

口中

客

帝哆囉呢種々有之天册六年

官遺夫於蝦夷地方行至骨宗詩利亦夷清言身有
罪流于此際願得從老爺一觀日本由長崎開洋遺
婦因通異域之功以償終身之罪死不朽其事不諧
号泣而去所奉佛像鏤之鐵板凡四板在膝連屬如
摺本板長四寸幅三寸許摺收可懷其國名曰一利
滑子計由骨奈詩利開洋經六島而後可到之從骨
奈詩利至丹多六福針在丑寅凡十里丹多六福至
島而福針在子丑十八里島而福至地利法針在丑

請

遣

打

島

五里地利法至
針在子丑三里
草木而之針在寅三十里麻草木而之至詩印詩利
在丑寅百里詩印詩利至一利骨子計五十里阿蘭
陀在其西北一利骨子計至阿蘭陀間有大川廣十
八里長六百里經此而後可到之

索木達莫

按女直考以地形推之或是野人女直種邦人呼索
木達莫蝦夷呼其地方曰索木達莫詩利其地接滿
州有閑名曰要島吉閑索木達莫人往還交易近時

高緣

此行經路甚多須臾

有滿州肥那女骨者采草類多其人常往滿州故稱
滿州約年三十四五面有痘痕勇武善射弁髮當額
前髮丸在分理一道成界如邦俗童子裝身被絮衣
以水豹皮為纜脚足穿鳥鞞隸從者皆着麻裘唯初
服用綿布弓制以絲須表而白木皮裘并箭胡瘦作
蚌腰狀名曰復母詩被獸筋為弦鏗以海驢皮纏把
名曰氣打船長三丈餘幅五尺合縫皆使木釘不使
鐵釘船有兩重板左右舷各置櫓三竿每人持兩櫓
一次盪之不以蝦夷而手更盪者一日可行三十四

珠

五里船底時以火灸亦取其輕進名曰木之打門櫓
形如木葉竿中當舷處穿小孔彼之舷邊牡木名曰
計鳥速其地約至大冬日駕之使或雪與鱗錦青味
白銅煙管皆其所齋米也

產物

鷹 松前城東離山出

鷲羽 以純白黑班為上品班中文具八字者最為

妙以為矢羽能凌風亦堪之用

鶴 丹頃者至美

久

貴

熊膽 小者用之有驗大者係罷膽無其驗

熊皮 罷皮不可用坐之毒使人發明

麻皮

水豹皮 毛疏如針淺有斑光沢如銀

臘虎皮 丹多六福出其毛至柔摩之無順逆為薦

褥甚妙亦夷亦采捕我邦諸侯唯在國守以上

得以及被馬鞞余在松前見一滿版其袂以此皮

為緣彼地賣尚過越我邦可知也

海驢皮

骨尼詩麻皮 黑色旋毛皮中奇而不易得

鮑皮 可以裝刀劍

脰胸臍 和詩之麻木四出胸以小為佳全身亦可

食味似海龜

鯨

鯨 一詩草利多出七八月間從海汴江隨午可捕

鯨 一詩草利出間咸汴江以四五月為期

鯨 三四月未聚海灣割為乳脰可食又為糞田之

料

乾

鱧

海參 鱧之有白黑二色白者用塩滷黑者掛之烟突

鱧 鱧之有白黑二色白者用塩滷黑者掛之烟突

水菌 至大者無

昆布 大者幅三尺長丈餘

滿錦 已以為服者未制裁者並有之滿州出索水

達莫傳之草類多草類多傳之足鳥也

滿珠 淡紫紺綠並有之

絲

鳥

○客

繪布滿州出，一種赤布，來者最奇。
 遠福利谷，味苦，能治腰痛，蓋菊之，其出也。
 伊傑麻，
 和骨刺，容母氣，利，阿蘭陀來者，係屢造，松前產極佳。
 黑百合，色紫黑。
 斑竹，詩也，骨打木出，無肥長者，可以為筆管，若鞭。
 蝦夷松，柏葉，松身，其質至柔，使屈曲，千匹，揉以為
 圍器，及獻賜之物，閣。
 油，歷與獸之所得。

○運

○遣

交易

蝦夷聚落，松前各置吏，以督商賈，故私，凡係國君及
 士大夫祿者，皆因其地所獲豐饒等差定之，直或百
 金，或二百金，商賈任其賦稅，出自炭金，并漁網船運
 交易物件，以射其餘利，商賈各自遣監奴，款人，于蝦
 夷交易，其所居家名曰運上屋，交易物件。

米，以八升為一苞。
 酒，以二斗為一樽。
 麴

○長衣

若主家衣表綵衣之類，奴隸為之，給飲食，充論門閭，宴會諸集，坐以其貴賤，莫得誤故事。

自古國界子

○須

被髮長須，耳貫銀環，或用銅錫，名曰年，草年，左衽，短衣，適至膝，頭髮微薙，額前其眉交接，徒跣不用鞋。

○天

兩行不戴笠，行止必携弓矢，或持鏢，背負長刀，若有之，腰佩曆刀，若有之，又制首巾及繳脚，隆冬盛寒，以此防之，股間夾知布，托其鼓道，係賣其法，其制人。

○間和

似國俗，主平漁獵，着水皮服，名曰阿子詩，若臨朝，夏。

或時節會飲，則着滿錦衣，及我兒婦人，刺繡故衣，帶亦以狹幅布，頭或抹，鞞亦用頰色繡刺布，童幼無論，男女皆髡首，微存髮兩三處，如總角狀。

婦人

被髮耳環，不異男子，兩臂刺鏤，縱橫針直細條，又刺唇，皆已壞之後，乃為以證無它志，曾聞掛銀鏡，左右有耳穿彩繩，掛之頭，繩貫滿珠金銀環，銅錢以為裝飾，名曰失馬氣，夫出漁，則亦往而助之，夫抵女務以采薪，畜鶴鷺，熊織阿子詩為事。

古

婚姻

必娶諸有血屬親者，故其稱親戚者，終古無相絕理。男家其父母相許婚姻，投物擇時，男家遺女家，以小七以為誓，名曰草矢。復妻，妻無定數，富者至有十餘妻。

生育

孕婦分娩，自乾海濱洗滌生兒，名曰血草地。地多骨，不用鹽菜，唯有祔壓勝之法。疾病鹽藥。

船齋

最忌疫症，或病之者，雖父子兄弟之親，棄而不顧。整無調劑，方皆獨用，大抵用鯁膽、月福利、過一計麻之。好用蒼樹，故買船多齋之。或訖所在，監吏欲人求九散者，故事必取證券而後授之，即暝眩至，或變故，不得怒所授人。蝦夷有螟觸，伏核中毒矢者，登時以屠刀剔其肉寸許，海水洗之，令毒不它侵及。

喪事

生平甚惡言死，亦曾不忍死事。四方遊行，必挾欵菜，具新服新席，卷為一束，未嘗離身。富家具木棺窆穴。

木

莫所不至既死而埋之山名曰多詩里上建衣本名
曰設牲泊生平挾用器物及珍室盡殉之地下死後
釀酒行礼其酒一夜而成名曰客由子賴立死者之
家必燒之為具子弟者別作序居之不歲門戶或有
不可已更出行則首冒木皮版喪中不食生魚独喫
乾腥喪終而新造屋凡喪子為親妻為夫皆一年寡
婦之再嫁者必終喪而後適若或父母兄弟有橫死
者知友來予者持刀斫其額一下以痛楚忌却悲愁
也又方以使其人痛楚想父母兄弟橫死之若之名

其

苦

曰滅草烏地凡有喪者言以念憂為至意故或語
涉悲傷則怒矣令人懷憂心也

祭祀

凡物之至尊者名曰草木一日月神位皆呼為草木
一蝦夷中別無所奉之神始島自山陀陀及名地所
祠并財天女皆係邦人之所奉蝦夷亦禱請求漁獵獲
飲酒大會名曰草木一乃竟其所謂神者拜日月祀
源豫州是已相傳豫州幼時入蝦夷題其首八百人
王女伺其出獵竊所藏秘書一卷志其交載在詞曲

谷

日

口潜

口唱

口也

中至今蝦夷每唱之感慨流涕西部有并慶城又傳
 豫州平家之敗誓入蝦夷遂入倚州此其聞洋之處
 其說益浪可疑吾聞文治伐奧之役糠部津野地方
 人遁入蝦夷者甚多其或借豫州勇武之名以恐唱
 蝦夷亦未可知之蝦夷呼豫州曰鳥氣過而盜草木
 一破亦在西部其岩如仙像衣被面容儼然凡船之
 過磯前者山論人夷皆作雜槎小船飲酒其中投之
 海以祭傳言不然則船至梨泥凡飲酒必祭其在屋
 下以口深酒灑之坐右楹在無屋處直供之天而後

口也

飲十月十一月之間有祭熊之儀其美北祭熊也蓋
 祭天地神祇之熊則其牲之當其時一部諸酋盡集
 各獻牲或一熊或二熊皆稱家富儉熊皆生乎所畜
 養者故以齡長相誇富者以三四齡者為牲酋中以
 最貴者一人為主其餘皆為客既築壇擊熊其前亦
 容進弓矢一具生主人請容射之容容因拜主人乃起注
 矢為射熊而退而後絕繫放熊容容主四圍亂射屠割
 膾之壇前當將薦時女蝦別具酒餅祭所殺熊乃生
 平乳養恩情之所為則祭熊也為祭天地昭文之蝦

夷呼其月日二乃覓子氣若其祭曰一要麻木飲况
祭神割木如流蘇柳立之神前名曰奈奈和口呪曰
樂一過鳥由而詩容祀

飲饌歌舞

飲酒以倒尊為期隨得飲盡不為後計醉不堪杯酌
者注所餘酒於小尊中持歸而与妻妾共尊名曰草
木草木凡為人所處赴會飲者必携一具將飲酒祭
揭頭須^匕杯上左手把杯右手執^匕添酒供之左在上
下祭畢而飲其儀可觀醉至耳熱鳴^匕起舞每伎可

觀徒揚兩手或一手拍肩伎中有鶴舞亦無他狀時
作鶴鳴声又唱詞曲吹小篳^篥以赴節其音草和草和
之其名曰草

居室

房屋低小無樓閣門臺覆不用瓦皆以竹葉蓋造屋
之法先作屋以四柱支起四壁亦以竹葉為障但東
部大低用茅蓋之席地居處倉廩設架貯物其上以
茅覆四柱迤地處費團板以防鼠耗

衣服

衣服

割木皮代絲質，疏似葛^布，入水不破，受雨不柔，裁彩
綿布，刺繡成文，其袖匡袂，長僅及膝，名曰^阿子詩，松
前舟師多好着，或紉綿絲，疏織成柳條^冠，任^佳矣，其它
蹲服綿布衣，係我邦及滿洲故物。

船

割木為底，兩^兩舷船，樞合縫，皆繩結，不使釘，船體注
流蘇，乃割木之所製，兩船置櫓，數適船長短，加感
之，一人盪兩櫓，船^却行甚疾，故棹手皆向船尾^坐，尾
又置一大櫓，以為舵，用帆檣兩條，掛席其間，卷舒不

似我邦帆檣之自在，別置小舳一隻，運載物於木船
一同我邦三板之用。

兵器

弓以圓木為幹，長三尺，被藤蔓為絃，矢制二羽，多用
鴉^鴉鷹，鹿角為鏃，削竹冒之，傳毒其間，別有鈇鏃，不以
為漁獵之用，皆磨小削而制之，凡射物，迨而後發，故
射命中，鏃亦傳毒，雖鈍，一鏃立死，盃鏃連箭首冒之，
遂被全身，皆以木造，一種短刀，由滿洲來者，名曰越
木詩，裝飾極廉，不^心用真，又猶本邦寶，又之蝦，甚珍。

重不敢腰佩心掛之頭其直至黃典身三年僅得買
一具至佳者雖典終身不能得之寺子尚者藏一右
刀者相傳其刀能喫飯名曰安麻之越州市每半復
後用屠海鯨從此之後不復喫飯遂失其靈詩谷子
有古盛一具既無頌項杜存号牌鐫八幡二字此皆
蝦中重宝昭著于東西部者云刀裝之奇巧有呼
蝦夷後藤者蓋方足利氏時工人後藤助右工門者
遣兵入蝦夷居多草地烏朱金銀多制刀裝後亂定
裊載所制刀裝諸物去船將開洋蝦夷乘夜盡殺其

人剽掠其物其物遂分散東西部蝦皆知宝之

戰鬪

戰鬪之度名曰車賴一草木利多用夜以出敵不意
蝦修妖術者潛行入敵中能令人不覺故毒箭或充
菌席下蝦夷之相戰其法先遺使陳所以戰之始未
言皆用古言奇声節相別有法猶春秋之辭命也若
敵有不能解其言者則為四方笑古稱蝦夷能作五
里霧余意謂是無它故蝦夷地固多深山平野瘴氣
疑結恍惚之際不弁咫尺固其常已畿內人不慣風

止故驚駭以為妖術之所致耳

製毒

合菴烏頭烟液以津液調之傳諸矢鏃乃鏃鋒蝦夷各有一家法皆秘不相傳或加用蜘蛛善樹者亦有之已製而挾之膝間以試毒緩急或置之舌上毒之峻者舌輒龜抗則以刀刮去必試之已身而後用之雖則羆熊之猛一中莫不殪者

嗜好

最好金銀裝飾刀凡意之所感賞反復摩挲遂以其

手摩其眉其它嗜好交易物件種乃是一凡百器和尚有已文者衣服不欲新非邦人垢衣不服用

漁獵

生平以漁獵為業故弓矢不離身獲之大利在海三四月鮭魚聚海灣七八月鮭魚由海沚江一舉網可得數十斛此其利最大者方是時邦人亦多往百漁者蝦性情且拙一日之獲比較之邦人大抵三分之一而已但如捕膾胸蝦中之絕伎老稱可觀其漁之以鏟刺之海面飛舸相逐不及則投鏟遙空多不誤

鎗制幹百別揲及長繩繫其反既中而斡脫一余之
繩且任臘納本向伺刀衰而曳之其鎗名曰敗奈禮
之設機于草叢間當戰徑孰來觸毒矢輒發名曰打
一麻子勿

珍室

凡有罪者出指珍室以償其罪為約者出之以代質
所謂珍室大抵以木邦古兵具為室甲冑刀削及鐔
其它刀裝以金銀裝飾觀義奪人目者重之如償罪
各隨其輕重增減其數雖至重罪無不可償者故蝦

夷重之如重生命或埋之深山幽谷中雖妻子不得
與知焉故沒後失其所處者亦有之

百工

無陶鑄漆髹匠獨長於彫鏤自刀削刀相揭須皆
彫鏤成文多作波文魚鱗亦好鏤已文工各有一
種造意之章不許它人作之其鏤刻初不設範隨刀
成文句成自得宜地使漁獵者無良工遠海閩蝦
無夏者多善之見今安子打地方有最好手可玩矣
人夫鏞皆磨所得又制之非別鑄成者性亦長磨刀

雖至鈍之刀一經蝦夷手則水可以乾
較隆可以斬

算數

算數以少為先多為次如數乾免積至一萬三十五
百七十三東倒舉曰三七十五百三十一萬東刻木
以為記雖免時經歲了不忘却

(Faint bleed-through text from the reverse side)

譯言

天文

ニシウ 天 千ウヲ 日

ウシ子チウフ 月 六ノ千ウ 星

レラ 風 久シヲマ

アフ 雨 云ラリ 雲

モヤ 霧 小ヲハシ 雪

コシルウ 氷 口フシ 氷合

アツイホ 天陰

時令

ハイカルウ

春

シヤク

夏

チユウノ

秋

リヤ

冬

トウカフ

晝

リン子

夜

シカベキリ

朝

シリクレ子

夕

マアソ

寒

ホマケ

暑

シリホノケ

暖

ハウ

年

シノクン子

至闇夜

命明

サツキ子

去年

ヲヤハ

来年

タント

今日

ニシヤツク

明日

ヲノマ

昨日

地理

シリカタ

地

ヘツ

川

ホロヘソ

大川

ホシベウ

小川

アトイナ

海

ワツカ

水

シブン

湧水

コイ

波

シノボロコイ

洪涛

ノトアン

谷波収

| | | | |
|-------|----|-------|----|
| キミタ | 山 | 八付 | 谷 |
| トウ | 沼 | シラリカ | 海岸 |
| ル井カ | 橋 | ト丑 | 土 |
| シユマ | 石 | ホロシユマ | 大石 |
| ホシシユマ | 小石 | ホロイソ | 岩 |
| ヲタカタ | 岸 | ヲタ | 砂 |
| ヤハカ | 陸 | ルウ | 道 |
| キシタルウ | 山道 | ヤハカル | 陸道 |
| ソウ | 瀑 | シリ | 島 |

| | | | |
|-------------|------|---------|----|
| レフタ | 洋 | シモ | 地震 |
| シヨシノマイハ | 長潮 | シヨシノマシカ | 退潮 |
| ア | 火 | ハシ | 炭 |
| ヲナ | 灰 | アハシ | 火筋 |
| チレハニ | 薪 | ベンマ | 石薪 |
| シニフヤアン | 烟 | セニホ | 烟管 |
| ニイニロアリキアベヤン | 添薪焼火 | | |

宮室

クセ 家室

シヨロロ 方 向

チウカタ 東

チヨフカバク 南

人物

カモイトノ 国君

ウクシ 奴隸

シヤモ 日本人

アイノ 長者

シエムトロ 西

チヨフホク 北

ニシハ 主

シイシヤモ 日本賢者

フリテシグル 悪人

オノカイ 幼者

男

チヤホ 父

エロ 兄

サア 姉

ヲムレタムロ 夫婦

ホホ 子

セントウ 乃国音船頭 船主

チフクロ 棹手

ヤニ 天下

メノコ 女

ハホ 母

アキ 弟

トレシ 妹

ヘカチ 小児

タイカニ 寡

ウシタセントウ 副船主

オウカイ 不佞

身体

シヤバ口頭

テキ井

セトル

ホニホ口

ヲトノ

シキイ

ハルシ

エトウ

キヤラ

ケマ

ホニイ

レキイ

トカ子

ハル

ニマキ

スキイ

耳

足

腹

鬚

乳

口

歯

陰莖

ホツキ 陰戸

衣服

シヤランベ

ワシコシヤランベ

シリヤ

セシカキ

フウレ

チメフ

アツシ

日本衣

アシリシヤランベ

シイア

ユンチ

レタリセンカキ

クツ

新衣

衣服

頭巾

白木綿布

柳條木綿布

帯

水皮服

赤紫衣

赤木綿布

木綿布

衣服文章

顔色

ウウレ 赤

レタル 白

クン子 黒

シテシ 黄

飲酒

アタモ 米

レタリアマモ 白米

フウアマモ

シットフカール 不化

カンタチ 麴

ムンシロ

ヒアハ

シラク 粕

アマハ 飯

ヲハ 藁

シツホ 鹽

シユム 油

サケ 正呼酒

アラサケ 清酒

ヤサケ 濁酒

イタク 飲

イハシ 食

シツブロ 鹹

ケラシ 其

イホシケ 酔酒

シヨモイク 不飲

サテツカン 飲酒了

サケシ子イクキ 酒一盃

アマモシ子チヨハン 米一升

ヨフマレ 行酒

タクタク 樽飯

シユケ 著

セツク 湯

トアネ 羊冷湯

ニマニ 買暖串

目録 数字

シ子ツフ 一

下ツフ 二

シツフ 三

イ子ツフ 四

アシキ 五

イハシ 六

アルアン 七

トヘシ 八

シ子ツシ 九

ハシナキ 十

アシキ子フ 百

シ子アツフ 十

筆法

シ子スケ 一束

トスケ 二束

ハスケ 三束

イ子スケ 四束

アシキ子スケ 五束

ユハンスケ 六束

アルハンスケ 七束

トバサンスケ 八束

シ子ハサンスケ 九束

ハンスケ 十束

器用

子ツフ 船

キナ 席

クツバ 杖

クツバ 弓

アイ 矢

イムレ 満刀

ツキリ 木短

セイクキ 釜

セイイ 皿

ハシウ 箸

シニトク 樽

ムツカリ 斧

イタキ 椀

セ、細

珍宝

針

シユウ 鍋

イタ 飯茶

キツキ 爐

カツクシ 杓

ナタ 鋸

シユマイタキ 磁椀

カモイ 尊

イコロ 珍器重宝

草木

ニ木

トツフ 竹

シユコ 松

ワス 朴

ラシグ 桂

サツ 魚

鳥獸

シヤモクカ 金銀

ムニ 草

カレシ 藁

ヤム 栗

トウシ 楓

ラ子

シゲリ 黄檗

チ 鳥

ヒシロシ 鷺羽

フキリホ 鹽蔵鶴

テタチリ 鶴

ハシタロ 鳥

ヤアトラタ 鷺

アマ、子カッフ 雀

シウヒ 熊膽

セタロ 狗

カハチリ 鷓鴣

シヤルシ 鶴

クイド 雁

コチヤイ 鳥

ウリ 鷓鴣

カヒウ 鷓鴣

ホクエク 熊

ユツ 麻

シエマリ 狐

モヨフ 貉

子コ 正呼

イセホ 兔

カツフウ 皮

ウ子ウ 脇胸

タイキ 蚕

キリヤ 蚊

セツロ 鼻

セツホ 魚

イシヤマシ 頼

ムマ 正呼馬

イリヒ 鼠

サイテ 鼯

キ、リ 虫

ウリキ 鼠

モウセ 蠅

カムチセツ 和 鞋

スウセツホ 生魚

カツテコセツホ 乾魚

チホロ 鮭胎

サツケウタ 乾海參

ヘロケ 鮓

ヘロケアツ 鮓 裏海

アエビ 鰹魚

シヤマン 皆魚

アツイテ 鱈

ラムバ 鱈

チナ 乾鮭

ウタ 海參

リヤセツホ 鹽藏鮭

モト、リ 乾鮭鮓

ホマ 鮓胎

フシ、 鮓

子アブリ 鱈

カ、マシケ 大魚

オシヨロ 尾

アチマチ 尾木

人事通用

ホロ 大

トクカ 得利

アシク 新

タシ子 長

モコロ 卧

ハ、ア、ン 行

セイ、フ、ス、リ 喜

イチヤニウ 鱈

ホン 小

ヒルヤ 失利

フシコ子 故

タギ子 短

ホブ、 起

ホ、ン、ロ 帰

ア子ヤタイラ 悲

ヒルカ 好
 コレ子 軽
 セツフ 廣
 エキイ 高
 ベナ 上
 イヅグルン 賣
 シユ 病
 クシタ 遠處
 ホニコロ 妊娠
 クハレ 思
 ハセ 重
 フツ子 狭
 ウム 低
 バナ 下
 ロク 坐
 タンバタ 近處
 ハカケトトリ 生育

ライ 死
 タ子ヤイラムソイナアニ 葬
 トシリ 埋 骸
 イホク 交易
 ハツカタアリキ 須汲水表
 イフスフ 意
 ヲヨフ 走
 ヒシケ 障
 フツカシ子ハイニツリ 在
 ヌツチシナ 棺 斂
 イヨマンテ 十月祭
 チムラム 餓 饑
 快行
 早々
 分物
 在 水 一 盃

井ヨマン 為人酌酒 船南洋

イ子ホウ 載物干帆 夕レベ 物

フウイ 洗 須来此處

モコソシ 賦 トナシノホリ 呼空来

ユウカリ 歌 ヌフカロ 舞

チセアナ 在家否 子ソフ子ヤ 何謂

ヤイタイ 拳綱 ノボリタロ 修杖術

ベラダキ 号声 シヤライカニリ 戦

ラムシヤ 交易典酒 ヲカイハ 有

イシヤマ 無 ヌレ子リ 骨

ホチヤシハ 不骨 子ビシキ 垂数

バイトロクウ 有理 ランコシエ 垂理

ヘンバクツラハアルキ 截幾許来乎

シカレ ○ アクナ 口

イシキ △

察木達莫認語

トシノ日 口月

ナモ海 波

ハクライイ 筒

タヌウ 火

サンヤ 烟

モウ 薪

フンジ

弓

チヤフウ 矢

ウンタア

船

ケウレ 櫓

ホタンヘ

枕

ウタ 鞋

カルンヘ

織物

ホツトラ 喪服

ハラタ

絆錦

チヨニシヨ 紅錦

カシユン

黄錦

シヤリ 縹子

ホウシ

綿布

チユエイ 青珠

タエ 烟管

バブセ 烟州

チセ 針

ニンカリ 耳環

キタ 鍬

チタア 火鉢

アラキ 酒

ブグ 朱

シヤツベイ 斧

ホタシイ 鐵

スルシヤ 狐皮

ケウフヤ 水豹

カラウ 獺

ヲモウ

ナタ 二

チヤツホ 三

エラア 四

ツテヤ 五

ツイ 七

ホレイ 九

シヤルハ 坐

ヲセツケニ 非

カシンタ 土

エイト 呼人声

エリク 六

ハリ 八

ツフア 十

ウレカ 是

チヤンケ 頭日

シヤエイ 庶人

猩奴訳語

月 ノ引セツ

年 コ引ト

夏 レ引ト

冬 シユマ

二月 アベレリ

四月 イユニ

六月 アウフス

八月 ヲキキヤフリ

水 ワツ

春 エスナ

秋 チ引セシ

正月 マルタ

三月 マイ

五月 イヨリ

七月 センキヤヒ

九月 ノヤブリ

十月

ゲフウリ

十二月

ベウラリ

商 トロフツイ

昨 ウチヤラ

昨 サリフウ

カ サリヒテ

匕首 ナリウンテ

鍋 子引

舟 ハイタロ

十一月

エスワリ

主 トセン

腹 ハラ引ク

今 チホミヤ

人 セトレカ

谷 ドボ引レ

小カ エソ引ケカ

桶 ワカン

家 ハイタロ

笠

ヒラ引バ

銀

ステレホロ

鐵

ゴレリ

鍋 鉄

チユダ

錫

引トホ

水銀

アルト引チ

銀赤銅

スタ引リ

錢

ケシキ

挂板

キアシ

金

ソ引ユト

銅

カラフス子メ引キ

刀 鉄

フリツタ

真 鍮

メ引キ

鉛

スイクナリ

金赤銅

セ引リニ

唐真鍮

ラト引ニ

人 参

サムサツハリ

水 管

インボリ

熊 鳥 小 惡 來 吸 無 名
 ムルエナ
 ハケ引キヤ
 ホリタ
 又ホ子チユシ
 キホ
 ビ引キヨシ
 ヒ引キ
 引タ
 引シ

鹿 矢 吉 早 行 見 有 湯 之
 ムリ引テ
 モソラフ
 ホレヨ
 又ホ子コン
 スコ
 ホイキヨシ
 エリヨ
 エ引セ
 グワラチヤワタ
 コ引ウラレテ

下子 樟腦 石膏 胡椒 鹽礮 真珠 松脂 草 馬
 クラチリカ
 カレバラ
 スイロ
 ブロフシヨト
 ベ引レソ
 レリ引タラ
 テ引コレイセ
 引ムシヨ引カ
 ワ引クシ
 コ引クラエ
 コニ

甘松 甘州 雞冠石 芒硝 明礬 莫大海 藿香 水 手
 セシレノイワ引
 カレスバリス
 テニスイ
 ナシヤテク
 グツ、スイ
 セロノ引ケリ
 ヲロシヤナ
 ヒヤ引ク
 ト引ノ
 ヲレニ

冠裳

柳

懂曼

蝦夷之難馴自古以然矣。神前氏越海以來，叛服不
 一，世未嘗不動兵戈。世移勢變，兵亂漸少，馴服幾不
 異古。姓^唯今之易為治，何往什陌放古哉？乃猶遠島僻
 處生蝦，時有猖獗不逞者，雖則其性固難馴。柳我巧
 為失術，亦有之矣。曰耀武曰厭意，是二者鎮夷之所
 最急。演武不熟，何足以耀威？交易不平，何足以厭
 彼意？兵戈足矣，演武熟矣，彼愚而或不畏，財物給矣，
 交易平矣，彼愚而或不嫌，是知用其術而未知所以

| | | | |
|---|--------|----|-------|
| 京 | グワテ引リヲ | 東 | ストク |
| 西 | サ引ハク | 南 | ホウリン |
| 北 | セ引アル | 軋 | ノルトエス |
| 押 | シユリエス | 翼 | シユハス |
| 良 | ノルトス | 墨貯 | ゼリニリサ |

日此

用術者之其所以用之者何一要在通曉我意於彼
焉爾士大夫於其務之赴之十城雖既有優其任憑
或抵衝於立談則委之喋喋說文而不顧彼其說足
有何恒心有何恒祿諸出說人口而入蝦夷耳士大
夫莫與知之是果何謂之然則為松前士大夫者當
以通夷語為先是謂之知所以用術之今記康正以
采蝦夷兵亂使後有事蝦夷者有所考也
康正二年春東夷作亂初童蝦有來諸乃利就工求
磨刀者童蝦與工語有忤工怒遂以其刀斬之亂由

日使

此起人民死傷甚多
長祿元年五月蝦攻詩乃利管館又敗版本橋內章
部等諸鎮
二年軋板蝦荷骨余魔院父子二人其它軋獲亦多
永正八年蝦敗烏須岸詩乃利倉前等鎮河埜李
通小林良定小林李景等自殺
十年蝦敗大館守將相原季胤村上政俊自盡
十二年六月大守光廣手軋蝦狩底野旬時兄弟二
人埋骸於小館東谷中名曰蝦塚

福

大永五年春東西諸部皆亂我地不沒者。袖松前子天
河耳。亨祿元年蝦亂。太守良廣自將討之。二年春蝦首打奈嶮。使二藤祐兼討之。軍被
而死。蝦遂來攻上國。二藤祐致誘致打奈嶮於城下。
太守自射殺之。蝦軍皆遁走。四年蝦有來窺大館者。太守聞其從射殺之。
天文五年六月。西部叛。誅蝦首打利。奈夫婦打利
奈打奈嶮之婿。東西夷遂平。

遺

寬永二十年。迦奈鳥氣叛。遺。嶋崎利廣往狛谷。梅之
承應二年春。寺本詩敗。免奈詩首。草弗骨打院。其後
免奈詩欲復擊寺。永詩遺下國。廣李佐藤某。新井田
廣成等。梅之。
寬文九年。東部法舍利車骨車院叛。車骨車院身長
七尺。刀能拉万石。素有叛心。以黨与鮮少。事久不發。
是時上國苗鬼。莫不出其下者。車骨車院遺人誘叛。而不肯。鬼
獵于野。車骨車院与其子沙門等。掩其不備。擊之。遂

遺

○乘

殺鬼菱將來勝攻松前城太守高廣遣蠣崎內藏主
佐藤權左卫門等將二千五百騎討之陣于岡內島
中諸蝦船載五六寸空樽穿箭孔空箭其際或首曹
尊泗海中吞來完矢未如雨佐藤權素手車骨車
院相識草身入蝦營不帶寸刃偽求和因生虜之沙
門手釵擊蠣崎內藏刀鐔毀不能支我軍有來
救者遂併虜沙門時官命來方諸戾出援兵洋輕南
部仙臺之兵既越海在福山城而不頓一兵不折一
矢者佐藤之力也

○單

○東

寬政元年四月將奈詩利麻首氣利伏尼詩等殺吏
竹田勘平其它商客殺人死傷者七十餘人是歲余
遊于松前客居三月畧得賭聞其始末蓋變報以六
月朔至号哭之声戶戶相達毒訛夫不歸女悲子非
命其狀有不忍見者蝦人殺人相報東木蝦呼邦人
為車木
得水再獲使女蝦盡割額斷舌其事有不忍聞者
之至其始末不可得詳太守遺松前平角新井田孫
三郎等往詰其故城中平夕縶甲磨兵其備亦可謂
嚴也官微聞其狀命南部津輕兩侯具援兵戒嚴

○詰

○詰

各在其處以待松前之報秋田侯別有運糧之任
官之為借備可謂至矣蝦既懼版千里外繫亂首若于
名以自解及九月有解嚴令下伏尼詩骨奈詩利首
三吉地子人多力善射能墜飛鳥性險惡固稱難馴
三吉地病將死乞藥于竹田既飲未幾而死又求消
夏酒不子謂蝦固有所術事因藥而激乘夜入術鐵
竹田高船大通北采石地鳥而一海湾先奪之三板
闔船無遺類遠近翕動所在響應一商潛伏床下給
使蝦奴強拉自山道道猶有尾逐者時夜未明霧四

計

塞不能并咫尺因以得免狀聞于安子討詩地方會
松前工匠在安子討詩而縫船者錯愕顛仆者棄鋸
鑿而逃變叛以六月朔至者乃其也未者之言也骨
奈詩利首亦有子氣乃一者安子討詩產之身伴長
大陰準須耗及胃少負氣渡入骨奈詩利諸蝦莫
不屈下符独三吉地不可屈乃以其妹妻之而後稱
島中雄安子討詩首一骨多要蝦中餘々至能解六
八字樣其母已寡子氣乃一取為已妾以子畜一骨
多惡其所業亦可畏哉故事春夏際東部諸首皆遠

行于赤夷草類多交易既歸而島中白松前使者
儼然來臨子氣乃一大驚子一骨身要談許因逆蝦
三十七名以解遂致其首於松前城島亂首八級於
城西立石野骨奈詩利奉不通商船其受号令請置
更自記人三右工門始子氣乃一葉已斬張于島中
不知漢之大常言松前族之家孰与我富欲人莫敢
往登一語即往彼以為欺已注毒矢拒之三往拔刀
倒授柄子氣乃一白或我所欺汝者我首可斬之遂
說曰松前族恭奉官大命任鎮夷之職今汝阻僻

島不受族令松前兵將來征官家百萬軍將尋至
方是時螳螂之臂何以足敵車轍且車木之靈有飛
火燒敵之術汝之毒矢雖曰如雨一旦用此術一島
灰燼優為之數十里外汝如不信我為而誠誠小行之
子氣乃一曰咄術亦有如此者乎三曰將以今夕
行之亦保令汝無它及夜分放流星天投蝦居諸蝦
奔走号泣天所即架驚如子氣乃一膽落鬼滑掩鼻
嗟歎蝦夷表氣者其受号命由此始彼遂呼三為至
車木至車木謂賢人之今夏松前新井田等亦挾三

北海隨筆



一 蝦夷人の海産物 蝦夷人の海産物 一 蝦夷人の海産物 一 蝦夷人の海産物
 夷の稗粟の如く又 蝦夷人の海産物 一 蝦夷人の海産物 一 蝦夷人の海産物
 魚の如く 蝦夷人の海産物 一 蝦夷人の海産物 一 蝦夷人の海産物
 此國の如く 蝦夷人の海産物 一 蝦夷人の海産物 一 蝦夷人の海産物
 利信の如く 蝦夷人の海産物 一 蝦夷人の海産物 一 蝦夷人の海産物
 此の如く 蝦夷人の海産物 一 蝦夷人の海産物 一 蝦夷人の海産物
 と云ふの如く 蝦夷人の海産物 一 蝦夷人の海産物 一 蝦夷人の海産物
 有る如く 蝦夷人の海産物 一 蝦夷人の海産物 一 蝦夷人の海産物
 此の如く 蝦夷人の海産物 一 蝦夷人の海産物 一 蝦夷人の海産物

たをて実物の様相減りて驚く多物二十とある事三つを打たせ
たは海山の極日せりては二十の極日せりては二十の極日せりて
海に海たる命のついでに何れとある事三つを打たせ
以ては実物とありては二十の極日せりては二十の極日せりて
此等の事ありては二十の極日せりては二十の極日せりて
江のたれは海にありては二十の極日せりては二十の極日せりて
危物ありては二十の極日せりては二十の極日せりて
を看人せりては二十の極日せりては二十の極日せりて
船川ありては二十の極日せりては二十の極日せりて
招前日一に向ありては二十の極日せりては二十の極日せりて

ありて実物とありては二十の極日せりては二十の極日せりて
女房ありては二十の極日せりては二十の極日せりて
下向ありては二十の極日せりては二十の極日せりて
掃やありては二十の極日せりては二十の極日せりて
然れども又果しては二十の極日せりては二十の極日せりて
十月二十三日の極日せりては二十の極日せりては二十の極日せりて
夷言ありては二十の極日せりては二十の極日せりて
天地ありては二十の極日せりては二十の極日せりて
雪氷ありては二十の極日せりては二十の極日せりて
沖波ありては二十の極日せりては二十の極日せりて
鳴磯ありては二十の極日せりては二十の極日せりて
陸谷ありては二十の極日せりては二十の極日せりて
沼瀧ありては二十の極日せりては二十の極日せりて

此遠者也 仍如件 元初二年 十二月十六日 所置印

御文言同前

右條一任去慶長九年正月廿七日 元和三年十二月十六日 先判之旨 殊不可有相違者也

寬永十一年 五月二日

一 從諸國初前渡之輩 對其人直商賣出 禁止

之變

一 無子細而松前 令渡海 賣買仕多者 有之者 急度可涉進 變

一 附蝦夷人之交 誰往來 何事不為 此心 亦要 別 惟夷人之非命之儀 不可申 或又

右條一可守之 若犯之 族者 任尚 亦代 先判之 方連 不為 嚴科 者也

寬文四年

市朱印

四月五日

を費りてすまのしるふて春と一山世を聞くは長年運りて
かき世の月夜能道より何あ保るをわきまをりてしは
あすは母鏡あいにるるをいふとわたの私論も他い命今ふあ
明道の本よをたかひきりてきとて長年世の為事とてあ海流
るるをいふと一山一山一山一山一山一山一山一山一山一山
あしの間とわいひし一山一山一山一山一山一山一山一山一山一山
西所吏地のちるをわきりてしは東西陸路のちるなりオニツカリ
印の山嶽のちるをわきりてしは二の間とわいひしツカリ
甲のちるをわきりてしは一山一山一山一山一山一山一山一山一山一山
西所吏地のちるをわきりてしは石カリ川へ船道ありてしはあ海の道

わいひしはのちるをわきりてしはあ海の道ありてしはあ海の道
あしの間とわいひし一山一山一山一山一山一山一山一山一山一山
西所吏地のちるをわきりてしは東西陸路のちるなりオニツカリ
印の山嶽のちるをわきりてしは二の間とわいひしツカリ
甲のちるをわきりてしは一山一山一山一山一山一山一山一山一山一山
西所吏地のちるをわきりてしは石カリ川へ船道ありてしはあ海の道
わいひしはのちるをわきりてしはあ海の道ありてしはあ海の道
あしの間とわいひし一山一山一山一山一山一山一山一山一山一山
西所吏地のちるをわきりてしは東西陸路のちるなりオニツカリ
印の山嶽のちるをわきりてしは二の間とわいひしツカリ
甲のちるをわきりてしは一山一山一山一山一山一山一山一山一山一山
西所吏地のちるをわきりてしは石カリ川へ船道ありてしはあ海の道

所々近世ハ山海ノ利古昔ニ競レハ其年ヲ
減クタリト云ルニカク臣領主ハ収納ス命所
馬少シクセズ其大概十萬二千金ハカリナリ
是ハ材木山鮮獵蝦夷商船等ノ運上也其委ニ
キト民間ハ知ルルモ非ズ只見聞ヲ以テ玉
着ノモノ云傳ルトコロ也

○山海ノ利澤アリトイヘレ五クク生セサレハ
國勢立カタク質朴ノ風アリト虽レ凍餒ノ憂
ト又カク難クヒト、セ津輕不熟シテ賣米國
ヲ出サル時松前一國ノ飢饉ニテ平生凶年ノ

備ナキ故余國ノキニ倍テ傷ニ強ク飢死多
カリレト也責テ麦作ヲタニ業トセハカ、ル
片ノ憂ハ少ナカルヘシ予去年早麥ノ種ヲ持
行蒔セ試シニ生立宜ク日數百六十日程ニテ
實レリコ、ヲ以カンガフルニ民ノ木ハ農麦
タルコトヲ知ラレメテ歲々草野ヲ開墾ナサ
シメハ遂ニハ其功成就スヘキナリシカレ氏
玉着ノ民ハ魚獵ヲ專トシテ耕作ニ心アラス
其上魚獵ノ中ト田作ノ時ト同時ナル故數百
年仕ナレタル業ヲ今改ムヘキニ非スシカレ

ハ玉着ノ者ハ獵ヲ業トシ田作ノ民ハ鄰國ノ
窮民ヲ以テ是ニアテ百姓ノ業ヲニツニヒハ
荏苒ト可成就ル穀生スル氏ハ國次第ニ開ケ
蝦夷モヲノツカラ習ヒ学ヒテ穀食トナル片
ハ即
本邦ノ人ト化スヘシ往古陸奥ノ蝦夷ト云ル
ニ津輕南部辺ハ不殘蝦夷ナリシカ多賀城ニ
鎮守府ヲ置テ教導シテ次第ニ風俗變化シ五
売生シ今ノ國トハナレハナルヘシ是ヲ以彼
ヲ思フニ後來后稷ノ事ヲナス者アラハ蝦夷

地不殘奥羽ノ如クナルヘシ

○今ノ松前ハ領内ノ中央ヲ以テ府トシ又津輕
ノ地ハ渡海近キヲ以テ便トス是其頃余國ヨ
リノ通路モ稀ニシテ別世段ノ時ノ創業也今
ヲ以テ考レハ土地險隘ニ迫テ餘優ナク海岸
岩歌子テ泊舟ニ便ナシ府トスヘキ地ニアラ
ズ是ヨリ三十里東海路龜田ト云所地平坦ニ
シテ一國都會ノ府トナスヘシ西北ハ連山海
へ追出テ蝦夷ノ國メトナリ東南ハ入江ニシ
テ數十艘ノ置ト雖比風波ノ恐ナシ海ヲ隔テ

南部佐伊大間ホノ湊へ七八里ノ渡リニシカ
モ海流穏カニシテ夕ツヒヨカラ三ノ如キ激
流十二景勝優大ニシテ箱館ノ山海中ニ突起
シテ入江ノ屏障ト成ナリ此地ヲ以テ府城ト
スルハ社々仙臺水戸迄モ船ノ通路出来ノ
江戸廻船モ自由ニナルヘシ管館ヨリ江戸廻
船ノ自由ヲ付江指ヨリハ上方ヘノ廻船自由
ヲナス片ハ海路ニラテ事足ルヘシ叔又亀
田ニ平田四五万石開墾シテ田作ヲ十廿シム
ル片ハ他国ノ豊凶ニ預ルヘカラス潮ヲ汲テ

鹽トナシ山ヲ陶テ鐵治ヲ起シ石ヲ碎テ金銀
ヲ取又鐵銅ヲ以テ錢ヲ鑄片ハ金ノ山海ノ利
潤ハ余物トナリ我國人豊饒不可勝言龜田ヘ
府城安座ノ後地又強ク條ト東海路ヨリ始ル
ヲ順トスハ第一亀田ヨリ三里北方内浦嶽
十里ハ山越者ニテ第一之關トナシ又ハ
川ヲ船通路トナシ西蝦夷地ノ大道トナシ時
ハ東西陸地ノ自由更ニ又ハ第三ニシテ
ヨリ曰カ嶽ハカケテ洪嶮阻固ニ人関トナシ
ニツカリヨリニテ以テ六七十里ノ平面ヲ

松前ノ地トシテ工ツヨク正以テ少ノ通路
ヲ追テ又西蝦夷地ノ大道ヲ開キ石列川ノ舟
ノ通路ヲ十六年東海路猶々自由也数年
ハテ成就シ後東海ノ伊弉比ニテ府ヲ才キ島
蝦夷共テ撫育教導スルトキハ土地ノ私ナ
下野作ノ地人ニシテアラス其量限極リカ
カラス又西海ノ少ヤニ府ヲ置キカラフト
ノ通路ヲ押テ夷人ノ望ハ品ヲ与ヘ交易ヲ
大ニスル所ハ数年ヲスレテ北海ノ長等ノ
如キ大濠出求テ本邦ノ利潤不可勝計是

大業十リ下雖一朝ニ其名ヲ建シ片ハ漸ク以
數十年ニシテ其功ナレハ然レ片ハ天下ノ
洪福ニシテ諸民其澤ヲ蒙ルヘシ基本ヲ建シ
トハ田野ヲ口元ノ好キハナレト雖玉着
ノ者農事ノ利ハ近遠ナリト思テ其心ナリ
十四ノ習俗ナリ草野ヲ開テ良田トナス
積年ノ功ニアラズシテハ難成下也其利頗速
ニハ見エハカラス速ニ功見エサレ片ハ中道
ニシテ廢スヘシ然レハ先シ習俗ニ應シ功
速カナルヲ以テ業ノ基本トセハ其事廢セズ

此其功也成此其易也其易也其功也
フ以全銀山人稼以天業人基本トセシ山中
ノ業小予カ任下カ所十レハ身命不及シ
死テ後止ハハシ廣大ノ業至リテハ予カ知
ル所ニ非不潛ニ聞ケル所アハ以是ヲ記ス
ル而邑也

○佐渡ノ東西十里南北二十里ノ孤島ニシテ越
國ノ去コト二十里也古昔遠流配所ノ地ニテ
國ト不レニ足サレニ今ハ分甸十二万石金銀
ヲ出ス下海内第一ノ富子カ力ニテテ物

産ニ北邊ニ十キモノモ此地ニ下リ又廻船ノ
大湊ニシテ人民多ク食タレリ古昔ノ佐渡ニ
非ス何ヲ以カク不如クナリヤト其故ヲ探ル
ニ全ク金銀ノ産スレ勢ヲ以人集ル下多ク
人力足テ田野開ケテコトニ至リタル也伊豆
七島ハ暖地ニシテ物産シヤス名海路モ穩カ
ニシテ江都ニ近ク上方ハモ順路ナリシカレ
正草味遠流ノ地ニシテ古昔ニ變レ下ナキハ
何ソヤ佐渡ノ如ク金銀ノ産セズ少ク山
野ヲ開カニシテ人力足キ故農事ヲ以テ

地勢ヲ張ル下ア久小サレハ也佐渡ノ金銀山
アル下上代ヨリ其キヲ入レ凡黄金花咲ク
下ナ知レテ數百年ヲへ名ル知レ慶長中漸ク
起テ沙汰ニ及レ其時ノ事ナリ
台命ニヨリテ大久保石川ノ西有司渡海
其法式ヲ興立セヨリ
憲廟ノ代ニ至テ大ニ開ケ今ニ其業不絶ヤウ
ニハナリタル也野作地廣大ニシテ金氣多キ
下古ヘヨリ人々知レ所ニシテ彼是論ス入キ
ニアラズ然レ後ル、事百年殊ニ海外興味ヲ

ヒラ久シク始業ナレバ其功一時ニ見出ハキニ
非ス爰ヲ以其濫興ヲ示スニ證ナシ又筆帝吾
頭ノ及テ所ニアテ其成功ハ期ヲ以定カク
只誠心力行ニテ是ヲ頭ハサシ然レコ
以テテ下容易ナルヘカラスレテ又難成ニ
テラズ其難費ノ基ヲ建レ下難キニ似タリ其
成功ヲ急カスニテ事ヲユルフスル代ハ年ヲ
積テ自カク成就スル下ヲ得ヘシコレ不難成
道ニシテ易キヲ取ルノ術也
○當世其基業ヲ立ル其難費ニアツル思慮肝要

